

平成28年度 北海道滝川高等学校定時制課程 年度末反省会議資料（学年）

領域	番号	目 標	本年度の具体的方策	担任・副担任の自己分析	次年度以降の目標達成のための取組や改善方法について
第1学年	1	基本的な生活習慣の確立をめざし、休まず登校する。	健康や安全に配慮し、規則的な生活リズムを身に付けさせる。	・高校入学以前から不登校の傾向があった生徒が多く在籍し、欠席日数が多い生徒が半数を占め、2名が進路変更となった。また、生活リズムの不安定さなどから欠席が増え、進級に影響がでている生徒もいる。	・高校生活に徐々に慣れ、登校することができるようになった生徒もいれば、環境に慣れ欠席や遅刻、早退が増えた生徒もいた。まずは睡眠時間や昼間の生活時間など、基本的な生活から見直しをさせ、優先順位を明確にし登校する習慣の徹底を図りたい。
	2	授業に取り組む基本的な姿勢を身に付ける。	授業に対する意欲・関心を持ち続けさせ、学び合う意識を高めさせる。	・学習に対し、苦手意識を持っている生徒が多く、わからない・できないという固定観念から積極的に学ぼうという姿勢はあまりみられなかった。また、集中力が持続せず、注意散漫になってしまう生徒が多い。	・高校で学ぶという意味を自覚させ、基礎学力プリントや宿題などから、学習する習慣を身につけさせるようにしたい。また、集中力をつけるためのトレーニングが必要である。
	3	集団生活を通して責任感と協調性を培う。	清掃活動を徹底させ、学校行事やホームルーム活動に主体的に参加させる。	・周囲とのコミュニケーションがうまく取れないことから集団での活動を苦手とする生徒が複数いるため、前期は行事に参加しない場合や、参加してもトラブルを起こすこともあった。徐々に距離の取り方を覚え、後期には全員で行事に参加することもできた。 ・清掃活動は生活体験の乏しさから、四角を丸く掃くような生徒と丁寧な生徒とに分かれる。	・限られたコミュニティでのみ人間関係を構築してきたため、集団での活動にストレスを受けやすかったが、学校生活や行事等を通し、他者と自分との違いを受け入れ、成育歴や価値観等の異なる他者とのコミュニケーションの取り方を理解していく援助を行いたい。
第2学年	1	基本的な生活習慣の確立をめざす。	学校生活全般において、自ら学ぶ習慣を身に付けさせる。	・授業、学習へ取り組む姿勢は大変良好であった。際だった成績優秀者や成績不振者がいるわけではなく、全体が平均的な成績のクラスである。 ・他の学年に比べ人数も多いことが良い影響となっているようだ。 ・基礎学力向上講座へ取り組む生徒が少なかったのは今後の課題である。	・学校外での生活リズムの乱れにより、遅刻や欠席が多くなった生徒がいるので、生活全般を見直し、学校生活に影響がないように改善できるように指導していく。 ・来年度は上級生として責任ある言動がとれるように指導していく。
	2	集団生活を通じて、社会性や協調性を養う。	学校行事や生徒会活動を通じ、コミュニケーション能力を育成する。	・年齢の高い生徒がいることもあり、他人のことを考えられる生徒が多い。 ・自分勝手な行動をとる生徒もいるが、他人に迷惑を掛けないよう気遣う姿勢がみられる。そのことを周囲も理解した上でコミュニケーションをとることができている。	・ほとんどの生徒は積極的に参加し活動しているが、協調性の見られない生徒も中にはいるので、社会性を身につけるうえで、参加していけるよう指導を続けていく。
	3	進路に対する意識の向上を図る。	進路に関する情報を積極的に発信する。	・特に三修制の生徒に関しては、具体的な進路を決めていかなければならない時期なので、面談等により意識を持たせている。 ・進路通信を活用し、情報発信は行っているが、進路意識がまだ低いように感じられる。	・三修制の生徒には進路決定をしなければならぬ年度のため、早い時期から面談等（三者面談も含む）を実施し、自ら行動できるように指導していく。 ・四修制の生徒には情報発信を積極的に行い、進路意識を高めさせ、具体的な方向性を決めていけるように指導していく。
第3学年	1	健全な生活習慣の確立をめざす。	学校生活全般において、自ら学ぶ習慣を身に付けさせる。	・昨年までは欠席の多い生徒がいたが、今年度は連絡のない欠席もなく、学業に対する生活習慣については身についたと思う。 ・支援を必要とする生徒がいるため授業態度や意欲については課題が残る。	・継続して指導していく。
	2	集団生活を通じて、社会性や協調性を養う。	学校行事や生徒会活動を通じ、コミュニケーション能力を育成する。	・集団とはいえ4名と少人数なので、まとまりはできるが、個人という考えが強く出てしまった。	・二人ともコミュニケーション能力が足りないため、必要なことが相手に伝わるようにしていく。
	3	進路実践に向けた意識の確立を図る。	進路に関する情報を積極的に発信する。	・3修制の進学希望者は特に問題なく指導できた。 ・3修制の生徒で就職希望者は進路指導をとおして、企業説明会へ行かせたり進路講話で面接指導などで指導していただいた。最終的には就職先が決まったが、本人の希望の事務職については、3年では資格も取れず希望通りとはいかなかった。 ・面接指導はもう少し多くの先生に指導していただけるようにした方がよい。	・進路について自分で考えることができるようにする。
第4学年	1	個々の進路実現に向けた人生観の確立に努める。	進路情報の提供と適切な進路指導を行う。	・クラス担任として保護者との連絡は常に心がけてきた。分掌、教科担任、保健室など多くの支援のおかげで2人とも保護者、本人の希望する進路先を決めることができた。	・卒業後に直面するであろう困難に対処する方法について、最後に指導していきたい。
	2	最上級学年としての自覚を促し、自主性・社会性の育成に努める。	各種行事への参加を通して、責任ある行動と自主性・社会性を育てる。	・まだまだ不十分ではあったが、クラス担任団としては精一杯指導を行ってきたつもりである。	・高校で得たものを活かして、進路先でも活躍してくれることを期待している。
		教頭より	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも担任の先生を中心に、ひとり一人の生徒にきめ細かく生徒理解・生徒指導・進路指導及び学習指導をしていただき、多くの生徒たちは自己有用感を得ながら社会的良識を身に付け、着実に成長していると感じます。 ・各学年のクラス運営ノウハウを次の学年の先生に効果的・効率的に引き継げるようにしてください。 		